明治学院大学
心理学部付属研究所通信

2016年2月
第8号

発行：2016年2月20日
明治学院大学 心理学部付属研究所
所長 花田 安弘
〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37
TEL.03-5421-5445

公認心理師法成立

2015年は、心理学の臨床系分野に携わっている方々にとり、画期的な年となりました。言うまでもなく、公認心理師法案の成立です。本年9月3日衆議院で可決、9月9日参議院で可決され成立しました。これまで毎年のように、今回は成立するだろうという予測を伺いそのたびに裏切られる経験を重ねていると、遂にその日が来たのだという感慨が湧いてきます。まだ詳しい内容はこれからのようですが、国家資格になることにより、今後将来的には病院などでの心理職の需要が高まるだろうと考えられており、心理学全体にとっても喜ばしいことだと思います。

受験資格を得るために必要な科目が今後決まってくると、それに対応したカリキュラムへの変更が必要になるでしょう。大幅な変更にはならないと思われますが、研究所というよりは心理学部の今後の大きなテーマになってくると思われます。研究所の相談・研究部門（心理臨床センター）の業務自体は大きく変わることはないと予想されますが、今後はスタッフには臨床心理士でなく、公認心理師の資格が徐々に求められることになると思われます。学部、学科での議論と平行して研究所においても、対応を考えていく必要があると思います。

今後数年間はどの大学の心理学科にとっても、公認心理師への対応をどうするかが、非常に大きな問題となり、そこで上手く対応した大学が、今後の生き残りに有利になってくると思われます。我々としても、知恵を出し合い、対応を誤らないようにしていかねばなりません。我々の力量が今後問われてくるのだと思います。

心理学部長・心理学部付属研究所長 **花田 安弘**

2015年度 特別研究プロジェクト①

研究課題名

心理学部付属研究所の近隣地域における実践的地域包括ケアシステムに関する探索的研究　～第2期～

研究代表者 **藤﨑 眞知代**（調査・研究部門主任）
研究構成員 **清水 良三**（教授）、**緒方 明子**（教授）、**伊藤 拓**（教授）、**辻 宏子**（准教授）、**横澤 直文**（助手）

昨年度までの3年間のプロジェクトを踏まえて、今年度から第2期として2名の本学教員を構成員に加えて2ヶ年計画でのプロジェクトを始動した。今年度は、昨年度までのアウトリーチ活動に加えて、地域住民から支援ニーズが高かったにも関わらず未実施だった学習支援に関するプロジェクトを試験的に実施した。以下に、今年度の活動を報告する。

（1）精神障害者のQOLの向上（集団プログラム）

2013年度から引き続き、アウトリーチ活動の一環として本学教員、助手、大学院修了生の3名で港区地域生活支援センターに出向き、心理教育プログラム「Illness Management and Recovery：疾病管理とリカバリー」を週1回の頻度で実施した。自記式の質問紙によりQOLの変化を測定したが、有意な変化はみられなかった。しかし、フルタイムの就職が決まった参加者を始め、就労に向けて活動を始めた参加者が数名おり、全体的に良好な変化がみられた。次年度は本プログラムの発展版の実施を視野に入れて活動していく予定である。

（2）学習支援プロジェクトの試験的実施

2015年4月より、通常の授業だけでは教科の学習内容が十分に理解できない近隣在住の小中学生を対象に学習支援を試験的に実施した。具体的には、発達検査の結果などを踏まえた指導目標を立て、週に1度心理臨床センタースタッフ、大学院生、学部生が関わり支援を行った。また、夏にはサマースクールを計4日間実施し、夏休みの宿題のフォローや夏休み明けのテスト対策などを行った。

今後はこれらの諸活動を通して、既存の心理臨床センターの支援活動と本プロジェクトで実施したアウトリーチ活動を相補的に機能させるための方策を探索していきたい。

2015年度 特別研究プロジェクト②

研究課題名

心理臨床センターにおけるグローバル化および内なる国際化に関する探索的研究

研究代表者 **阿部 裕**（相談・研究部門主任）
研究構成員 **杉山 恵理子**（教授）、**緒方 明子**（教授）、**渋谷 恵**（教授）、**鞍馬 裕美**（専任講師）、**倉本 英彦**（研究員）、**榊原 佐和子**（研究員）、**津田 友理香**（研究員）、**横澤 直文**（助手）

▶ ヌエバレオン大学心理学部付属心理臨床センター

▲ヌエバレオン大学心理学部棟

2015年度は、グローバル化と内なる国際化の2つの探索的研究を行いました。グローバル化では、今後の心理臨床センターの国際化に向けての在り方の検討であり、国内外の心理臨床センターがどのような試みを行っているのかを調査しました。例えば、アメリカに近いモントレー市のヌエバレオン大学の心理学部付属心理臨床センターでは、センター内で、小児、分析、認知、家族、夫婦など支援部門が別れており、きめ細かな心理療法が行われていました。外国人に対しては、ほとんどすべてのスタッフが、英語とスペイン語のバイリンガルなので、その2ヵ国語については問題なく、それ以外は通訳を使うとのことでした。また日本でも、同志社大学と帝京平成大学の心理臨床センターでは英語のカウンセリングが実施されています。

内なる国際化については、神戸市、名古屋市、浜松市、町田市、港区での調査が行われ、外国人のニーズが徐々に明確になってきており、特に第二世代の子どもたちの心理支援や学習支援が求められ、ネットワーク形成の必要性が焦眉の急であることも判ってきました。今年度中に、アメリカ、デトロイト市およびサンフランシスコ市での学習支援の調査、フランス、パリ市でのマグレブ労働者およびその子どもの調査、スペイン、バルセロナ市でのモロッコ移民およびその子どもの調査、フィリピンにおける日系人の子どもの調査など、調査予定は目白押しです。2016年度の継続研究に向けて、順調な滑り出しといっていいと思いますので、さらなる調査、研究に期待いたします。

萌芽研究プロジェクト1

外国人児童生徒に対する学習支援に関する基礎的研究

本研究の目的は、日本語を母国語としない外国人児童生徒に対する学習支援及び日本語指導が、学校の内外においてどのように展開されているのかを明らかにし、そのうえで、教員養成を行う大学が担いうる学習支援のあり方について追究することにある。具体的には、学習支援の実施主体や実施場所、支援内容、支援組織の体制や指導者研修等に関する先進的な事例の特徴とそこでの課題を析出することを企図している。これまでに横浜市内の外国人児童生徒の現状と教育政策の動向に関する文献調査を進め、また、日本語指導を行っている学校の訪問調査を行ってきた。関係者へのインタビュー等を通じて、今後その特徴と課題をまとめていく予定である。

鞍馬 裕美（専任講師）、**佐藤 公**（准教授）

萌芽研究プロジェクト2

高齢者の医療・健康情報のアクセシビリティに関する現状調査

本研究は、都内と地方都市に住む高齢者を対象に、医療や健康に関する情報について、入手メディア、メディアの利用時間や信頼度、e-Health literacy、入手過程で生じた不満、新技術や医療・健康情報に対する希求態度などについて、教育年数、性別、既往歴などの属性と併せて実態を調査することを目的とした。郵送調査を行い、東京247名、長野276名、計521名（age: M=70.93, SD=4.98, range=57-85; % female=48.9）から回答を得た。有効回答率は80%だった。対象者は医療や健康のさまざまな情報をTV（21%）、友人・家族（18%）、新聞（16%）から得ており、インターネット利用の割合は予想以上に低かった（6%）。また、対象者の多くは医療や健康の情報について様々な不満を感じていることがわかった。今後は、これらの不満について、対象者の属性、情報希求の態度、利用メディア等の観点から分析する予定である。プロジェクト予算で500名以上の調査が可能になった。このような研究の機会をいただいたことに感謝いたします。

金城 光（教授）、**野村 信威**（准教授）、**石井 国雄**（清泉女学院大学 専任講師）

公開セミナー報告

発達障害への専門的アプローチ
～二次障害への対応と予防～

2015年8月30日（日）開催

「発達障害と二次障害」概論

緒方 明子（明治学院大学心理学部教育発達学科 教授）

「発達障害と二次障害…医療の立場から」

小野 次朗（和歌山県発達障害者支援センター 顧問、大阪大学大学院医学系研究科 招聘教授）

「発達障害・虐待・二次障害…心理の立場から」

玉井 邦夫（大正大学人間学部臨床心理学科 教授）

子どもの学校不適応とメンタルヘルスの向上

2015年11月7日（土）開催

「包括的支援アプローチによる不登校の個別支援から市単位の不登校数半減へ」

小野 昌彦（明治学院大学心理学部教育発達学科 教授）

「子どもの強みを引き出す対話」

伊藤 拓（明治学院大学心理学部心理学科 教授）

相談・研究部門報告（心理臨床センター）

2015年度は、4月から心理学部付属研究所の相談・研究部門である心理臨床センターで、スタッフの多くの交代がありました。臨床系および発達系のカウンセラーは2人とも新しい人に代わり、アシスタントカウンセラーも例年通り、2人の新顔を迎えました。心理臨床センターには卒後研修を担う役割もあり、毎年新風が吹き込まれるのも嬉しいものです。また発達系の主指導教員も変更になったため、今年度はこれまでとはかなり異なった雰囲気の中で、活発な業務が行われました。

業務内容については前年度とそれほど大きな差はありませんでした。これまでの相談業務、継続プログラムの実施、スタッフ研修、セミナー運営、大学院生の教育補助は例年通り行われました。毎週行われている発達系のカンファレンスでは、質的な強化がなされ、臨床系のカンファレンスで検討される大学院生担当ケースはスタッフ全員で共有するようにしました。今日では、心理臨床センターも国際化が求められているので、それに向けた準備およびアウトリーチ型活動も検討中です。

● 2014年度心理臨床センター利用者数（延べ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初回面接	13	16	10	12	11	10	11	8	12	11	5	5	124
継続面接	104	138	126	121	90	137	143	131	135	145	161	166	1597
心理検査	2	1	8	4	8	1	1	6	1	3	3	4	42
PDDの子ども向けグループプログラム			11	12	10	6	8	10	5	4	11	5	82
親の会「ゆりの木」			6			4	8		12		7		37
余暇活動支援		3	4	5		5	4	5		7	6		39
合計	119	158	165	154	119	163	175	160	165	170	193	180	1921

● 2014年度新規受付ケース相談分類

相談分類		件数	合計
社会生活面	職場不適応	9	53
	学校不適応	13	
	対人関係	19	
	家族関係	10	
	夫婦関係	2	
行動面	引きこもり	1	5
	摂食障害	2	
	習癖	1	
	痴呆	1	
身体面	疲労・倦怠感	1	3
	健康上の悩み	1	
	心気症状	1	
精神症状	抑うつ	4	19
	不安	4	
	情緒不安定	6	
	意欲低下	2	
	解離症状	1	
	心身症	2	
発達面	知的障害	1	40
	学習障害	1	
	自閉症スペクトラム	34	
	落ち着きのなさ（ADHD）	1	
	言葉の遅れ	3	
その他			4
合計			124

明治学院大学心理臨床センター

あなたのこころを支えたい

学校、対人関係、性格、子育ての悩み…
お気軽にご相談ください。

予約電話 **03-5421-5444**

受付時間 月～土曜日 午前10時～午後6時

ホームページ http://psy.meijigakuin.ac.jp/clinic/

※ホームページからご相談の予約はできません。お電話のみの受付となります。